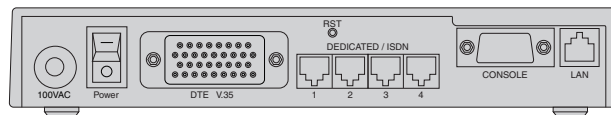


ランバースビュー シー エルタック
LanverseV EW_C_LTC管理装置 (オプション装置)
複数のLanverseMUX装置をユーザーが直接運用管理するためにLanverseV EW_C-LTAC管理装置を用意しています。
・C-LTAC管理装置は、ユーザーのセンタに設置して外部からのアクセスではなく、総てのLanverseMUXをインバンド通信でユーザー・センタから設定・管理することができます。
・通信管理者の負担を軽減するために、一目でその日のトラフィック分布が把握できるようにトラフィック量をグラフで表現して、視覚による最適化調整が行えるように設計されています。
・LanverseMUXは、C-LTAC管理装置を導入しなくても、弊社の「通信管理サービス」をご利用になると、通常の通信終端装置として、そのまま導入できるようになっています。

ランバースビュー シー エルタック
LanverseMUX管理サービス (オプション・サービス)
当社では、ダイレックスCCCセンターから遠隔操作によるLanverseMUXの管理と通信トラフィックの最適化管理のサービスを提供しています。
・官公庁、金融機関、その他ミッション・クリティカル情報を取り扱うユーザーに対しては、通信管理サービス用「セキュリティ監視ネットワーク」を介して、トラフィック情報の吸い上げと分析・報告を一貫したサービス・パッケージとして提供しておりますので、ご相談下さい。



LanverseMUXの主な仕様

回線側インタフェース	適用回線 : 64/128Kbps専用回線、ISDN交換サービス 接続コネクタ : ISDN 8ピンモジュラコネクタ インタフェース : TTC JT-430及び JT-430 インタフェース数 : 4回線 (専用線、ISDNの任意組合せ最大 4回線まで)
端末側インタフェース	通信速度 : 64Kbpsから512Kbps 接続コネクタ : ISDN 2593 (34ピンコネクタ) インタフェース : ITU-T V.35 インタフェース数 : 4回線
管理機能	・コンソールポート : 標準装備 (Async 9.6Kbps もしくは 38.4Kbps) ・コンソール管理機能 構成設定 イベント情報 動作状態 課金情報 ・LANポート : 標準装備 (10Base-T)
暗号機能 (オプション)	対称鍵暗号 (Dcrypt暗号 独自方式、鍵長 128ビット)
諸元	・電源条件 : AC100V±10V/50/60Hz 40W 外形寸法 : 幅 219mm×奥行 190mm×高さ 39mm 温度環境 : 5~35 湿度 20~80% (結露しないこと) 重量 : 約 1.2Kg

ランバースマックス
LanverseMUX
Dynamic inverse multiplexer

帯域拡張 縮退制御機能付き
デジタル多重ターミナルアダプタ



暗号機能を搭載

エコノミー専用回線と ISDN回線のそれぞれの特性を活かした
経済的でセキュアな通信を提供します。

www.direx.com



ランバースマックス

LanverseMUX

暗号機能を搭載

完全な暗号化伝送、安定したスループット、優れたレスポンス、安い回線料金を同時に実現します。
SDNの不要発信による異常課金を管理・監視し、論理切断の不安を解消します。



LanverseMUXは、エコノミー専用回線とSDN回線のそれぞれの特性を活かして、P通信用の瞬間高速通信に適合するように、経済性とセキュリティを追求して開発されたダイナミック逆多重装置（インバース・マルチプレクサ）です。

P通信は、インターネット網や広域イーサネット網のような一見経済的なネットワークを使用できるメリットがある反面、一般にアプリケーション・レベル・ハッキングやDOS攻撃の脅威にさらされているばかりか、通信品質（QoS）に弱くネットワークパフォーマンスの脆弱性に悩まされて、結果的には高価な通信コストを支払っているのが現実です。ネットワーク設計の段階では、通信品質（QoS）とセキュリティは、費用対効果の判断が難しく、被害に遭ってみたいとその損得を知ることができません。LanverseMUXが、このネットワークパフォーマンス、経済性、セキュリティの最適化と統合化に課せられた難問を解決しました。LanverseMUXには、ダイレックス独自開発の「Dcrypt通信プロトコル」^{ディークリプト}搭載によって、官公庁、金融機関等の高度セキュリティにも対応できる全通信層における高速暗号通信を提供します。

ダイナミック帯域拡張 縮退制御機能（ベーシック機能）

- ・ LanverseMUXは、エコノミー専用回線とSDN回線を併用して、64Kbps～512Kbpsまで実トラフィック量に応じた帯域をダイナミックに拡張と縮退制御を行い、スループットと応答時間 遅延時間の通信品質（QoS）管理を行います。
- ・ 安定したスループット（実効通信速度）を保証するために、独自のスライディング・ウィンドウ方式により最適化統計を取り、予め設定されたトラフィック量の「しきい値」により、確実な帯域制御が行われます。
- ・ トラフィック量に応じた帯域拡張 縮退制御時の通信エラーの防止と優れたレスポンス時間を確保するために、当社独自のデジタル多重方式による通信プロトコルを採用して、ネットワークパフォーマンスを継続的に提供します。

回線バックアップ機能（ベーシック機能）

- ・ LanverseMUX間の稼働回線を他の専用回線又はSDNでのバックアップ回線への切り替え操作は、回線断の障害が発生した時点で切り替える方式ではなく、稼働回線の通信品質が低下するとある「しきい値」で自動的に通信に影響を与えずに切り替わるように設計されています。
- ・ 回線バックアップ中は、障害のあった稼働回線の回線品質をテストデータにより監視しており、通信品質の復旧を確認して、自動的に切り戻しを行うことができます。

バルク伝送機能（ベーシック機能）

- ・ エコノミー専用回線とSDNとの組合せで、ファイル転送などの大容量伝送用に最大回線をバルク伝送します。
- ・ エコノミー専用回線は、Bチャンネル単位で帯域が設定でき、SDNは、Bチャンネル単位で帯域制御します。

SDN利用日時指定機能（ベーシック機能）

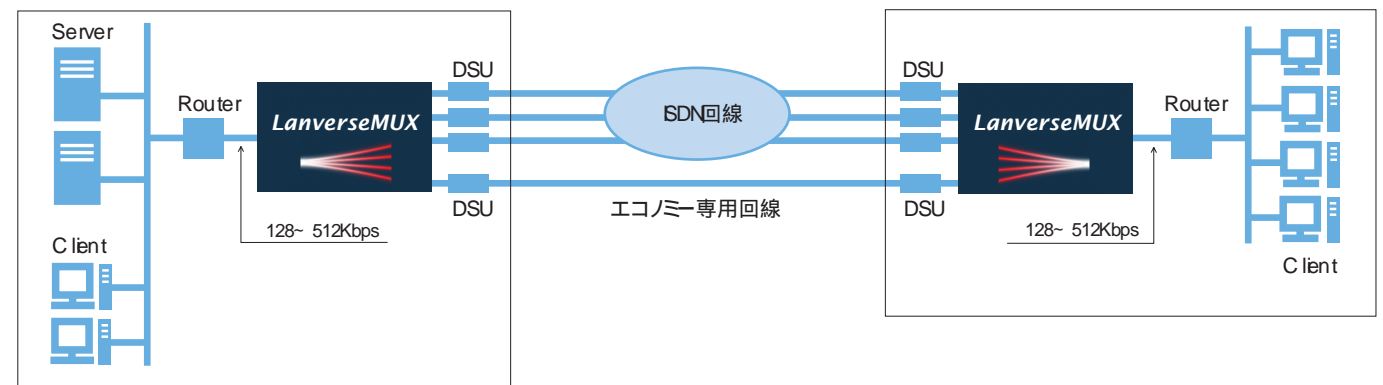
- ・ LanverseV E/W C-LTAC管理装置の画面からカレンダーの指定により、SDNの発呼可能日 時間を設定して、指定日 指定時間以外のSDN発呼を制限することができます。

4つのSDN不要接続防止機能

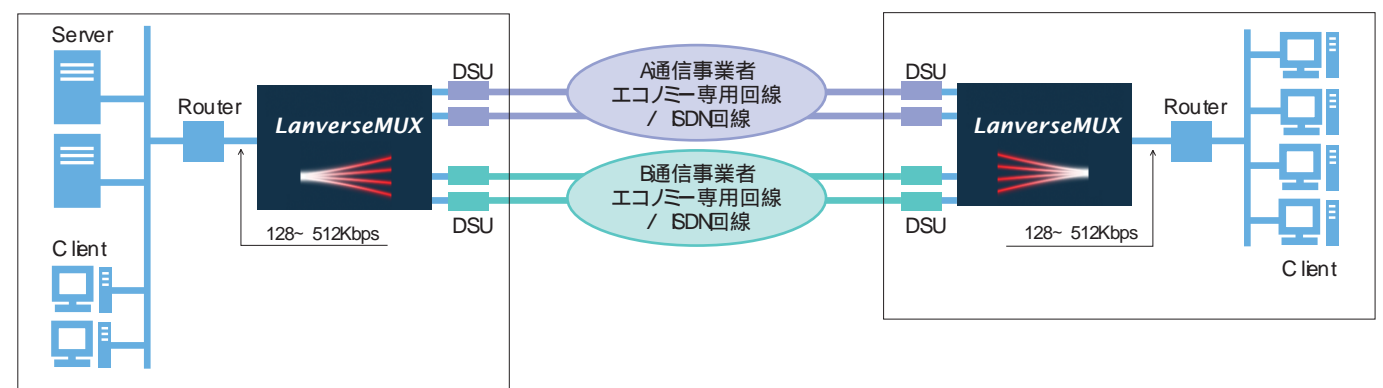
（不要発信管理 監視機能）（ベーシック機能）

- ・ SDN最大接続時間監視機能：SDN回線の1月の最大利用時間を設定可能。
- ・ 日額最大課金監視機能：SDN回線の1日の最大利用金額を設定可能。
- ・ 月額最大課金監視機能：SDN回線の1月の最大利用金額を設定可能。
- ・ 拡張 発呼禁止スケジュール機能：祝祭日、指定した日時は、SDN回線を使用禁止に設定可能。

LanverseMUX [エコノミー専用回線 + SDN回線]



LanverseMUX [エコノミー専用回線 / SDN回線]



自動同期再確立機能（ベーシック機能）

- ・ LanverseMUXはデジタル専用線網内の伝送遅延の変化を検出して、自動で同期の再確立を行います。デジタル専用線網内の伝送経路は局内設備の故障などにより自動的に経路の迂回が行われることがあります。この場合、網内のデータ伝播遅延時間が前の状態から変化します。この変化はユーザーインターフェースにおいては基本ユーザー・網インターフェースのフレーム（フレーム）のフレーム同期ビットの変化として現れるのではなく、情報チャンネル（B1/B2のビットストリーム）として現れます。

一般にこの情報チャンネル（Bチャンネル）をすべてユーザーに提供するバルク多重装置の場合には、この種の網の変化が発生した場合にも、この変化を検出することができず、継続的なビットエラーが発生し、手動で再同期を行わない限り正常な通信には戻りません。

LanverseMUXは、この情報チャンネル内に独自の同期フレームを構成しているために、このような情報チャンネルの伝送遅延の変化が発生しても瞬時に検出して、自動的に同期の再確立を行います。



暗号化通信機能（オプション機能）

- ・ LanverseMUXの暗号化方式は、当社独自開発のリアルタイム暗号化方式により高速の暗号化と復号化を実現しています。
- ・ 暗号処理は、アプリケーション層からリンク層に至るまでの意味データ及び形式データも含んで送出されるビットストリームを対象にしたリアルタイム暗号化通信を行いますので、高度なセキュリティを要求するアプリケーション用の通信に最適です。